

第4章 庵寺石塔群

庵寺石塔群の発掘調査対象地の上方の岩窟内に元禄二（1688）年銘の宝篋印塔および正徳五（1715）年銘の方柱状石塔、地藏仏が納められている。岩窟前には石灯籠が立てられ、その全面の平坦地周辺には墓標類が寄せ集められている（図版86）。

石窟は東に向けて開口している。規模は幅2m、奥行き1.3m、高さ2mである。石窟の正面に平坦地があり、その北と西辺に石造物が寄せ集められている。石窟奥壁に幅60cm、奥行き45cm、高さ60cmの小石窟があり、その中に地藏仏（台座含めた高さ55cm）が納められている。

宝篋印塔は組み合わせ式で、総高166.5cmである。上から、相輪、笠、塔身、基礎、基壇から構成される。基礎の下に反花座を表現した二重の基壇を持つ。各部材の正面（東面）に梵字が刻まれている。相輪に「キヤー」、「カー」、笠に「ラー」、灯身「バー」、基礎「アー」の南方修行門を表している。基礎には「元禄二」年の銘がある。

方柱状石塔は、高さ172cm、幅47cm、奥行き37cmの大型石塔である。正面は縁を残して位牌状に枠囲いする。正面右側に「正徳五」年銘を刻む。頂部は寄棟状をしており尖頂型と円頂型の中間形式といえる。

これらの石塔群は保存状態が良いことに加え、年号に記された元禄-正徳年間は石見銀山の最盛期と重なり、石見銀山にある同形式の石塔類研究の基準となるものであることから現地で保存された。

発掘調査対象地は世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』のバッファゾーン内の範囲内であり、この岩窟の前面の平坦地には、参道や墓地などの関連する遺構が存在する可能性があることから、道路用地内の岩窟の前面の平坦面に調査区を設定し試掘調査を実施した。期間は平成27（2015）年5月25日～5月28日である。試掘調査の結果、石列や基壇、石造物を確認したことから、本発掘調査を実施することとした。本発掘調査範囲は約70㎡、調査期間は平成28（2016）年11月28日～12月12日である。本発掘調査の結果、石列及び墓地の基壇と考えられる区画を確認した。また、造成土には18世紀以降の特徴を持つ石造物の破片や陶磁器片が出土した。

調査の結果

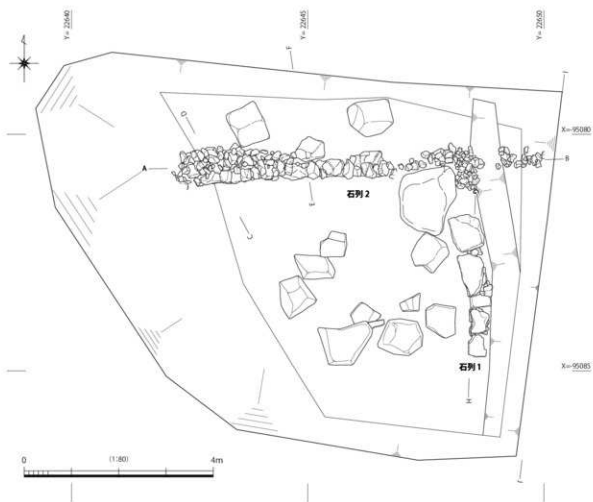
調査地は岩窟の下に位置する平坦地である。調査区には拳大から人頭大の角礫が大量に埋まっており、上方からの落石が多かったことがうかがえた。遺構は南北方向と東西方向にのびる石列を1つずつ確認した（第81図）。

土層

調査前の標高は約11mである。調査区の東壁では、上から黒褐色土、暗褐色土が覆っていた（第84図I-Jライン）。石列の下には灰色泥層があり、この層は色の違いから明瞭に区別することができた。この灰色泥層では遺物が出土しなかったことから、完掘したと判断した。なお、確認のために深く掘ったところ、オリーブ褐色砂礫層が堆積していた。この砂礫層は固くしまっており、水が湧くことから調査を終了した（第86図K-Lライン）。



第80図 庵寺石塔群調査区配置図



第 81 図 鹿寺石塔群遺構平面図



写真 9 作業風景

遺構

調査区の南側で1か所、中央に1か所の石列を検出した。

石列1 (第82図)

調査区の東端に位置する。わずかに屈曲するがほぼ南北に延びている。長辺40～60cm、短辺30cm前後の直方体の石を並べており、北側ほど石が大きくなる。調査区の中央北東寄りに大きな石があり、そこから北側には石がない。なお、この石列の東側には平たい石を二段ほど積み、その上に蓋をするように平たい石を置く暗渠が南から北へ延びていた。これは南側では露出し、表土直下に位置していたことから写真を撮影するのみにとどめた(図版87)。遺物は出土しなかったが、次に述べる石列2を一部壊しており、石列2より新しい。

石列2 (第83図)

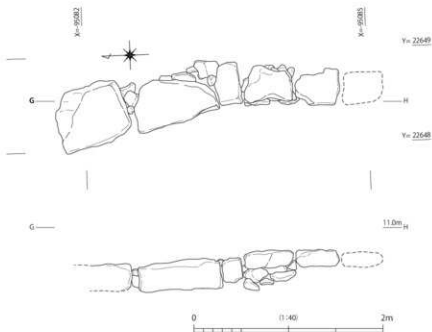
調査区北側に位置し、ほぼ東西に延びる。上層と下層に分かれる。調査区内の約6mの長さで見つかった。5～6個の拳大の角礫をにぶい黄褐色土の中に置いている。石の間には土が詰まっており、下層の石は見えない。暗褐色土中にある礫と石列の石と区別することは難しく、中央では下の石が露出してしまっているが、石の面をそろえているかどうかで区別した。やや南が低く傾斜している。東側では大きな石により軸が曲がっている。このため側面図も北側からしか実測することができなかった。遺物は出土しなかった。

なお、試掘時に石列や基壇と判断した遺構は、暗褐色土中の遊離した角礫であり、石列2とは無関係であることが分かった。

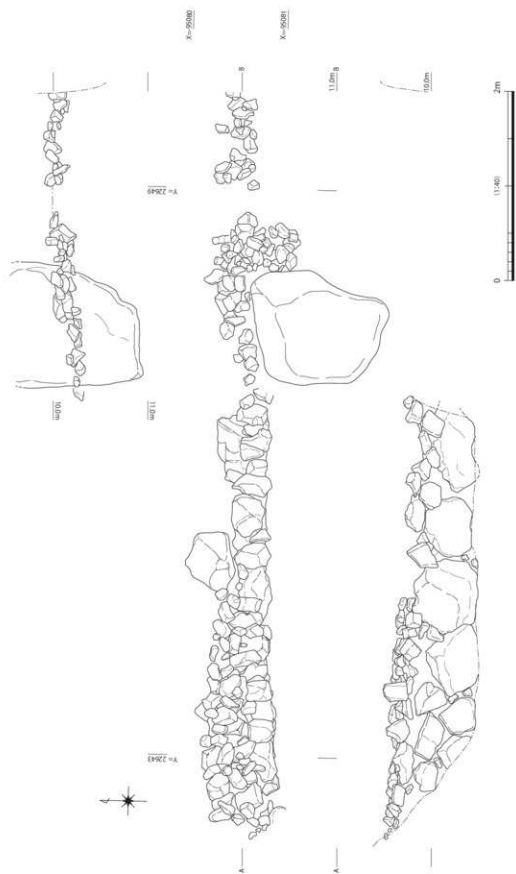
上層の石列を取り上げると下から下層の石列が見つかった。上層では下層の石列が見えない。

下層の石列は調査区内の約3.5mの長さで見つかった。大きな角礫を1列置くのみである。灰色泥層の上に築かれており、浅黄色土が覆っていた。下層の石列の石は南側の面をそろえており、面を意識したと考えられる。遺物は出土しなかった。

このほかに遺構は確認できなかった。



第82図 庵寺石塔群石列1実測図



第 83 图 庵寺石塔群石列 2 实测图

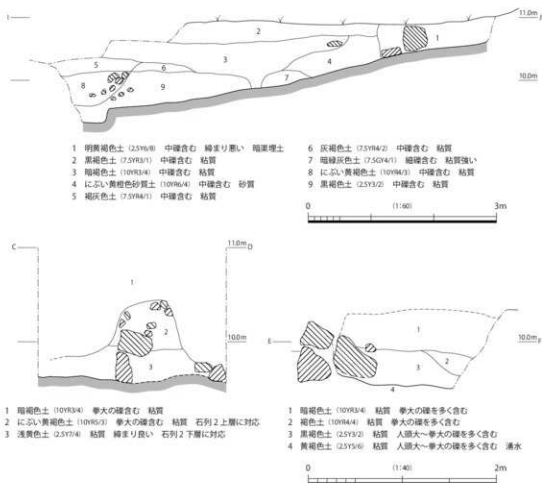
遺物 (第87図1～第89図41) 出土遺物には、灯籠と考えられる石造物の破片、近世の陶磁器、瓦がある。合計コンテナ5箱である。このうち土器、石器、石造物を図示した。

土器 (第87図1～20) 1は奈良時代の土師器である。高坏の脚部であり、脚部は太く、外反して端部へ至る。2～8は中世土師器である。2は坏である。摩滅が著しい。3～8は皿である。そのうち3～6には口縁部の内外に煤が付着しており、灯明皿として使用したことがうかがえる。体部は3～5は直線的、6は曲線的である。7は底部が突出気味である。8は底部外面の調整がヘラケズリである。

9は同安窯系青磁の皿である。角が風化している。10は唐津焼の皿である。11は信楽焼の皿である。内面を施釉する。12は口縁部が波打つ。萩焼の皿である。内外施釉する。13は国産陶器である。14～17は磁器である。14は端反の蓋である。16は広東碗である。17の見込みは蛇ノ目軸剥ぎである。18は石見焼の香炉と考えられる。ロクロを使っていないと考えられる。19、20は備前焼の播鉢である。共に内面はよく使用されている。19は口縁部が厚く上下に拡張する。20は播目が残る。

9は13世紀代、11は19世紀第一四半期、12は19世紀代、14は19世紀中頃、15は18世紀末～19世紀第一四半期、16は19世紀第一四半期、17は18世紀第三四半期、19は口縁の形態がIVB-2類と判断し、15世紀後半代と考えられる(重根2003)。20も同時期と考えられる。

石器 (第87図21) 21は太形蛤刃石斧の身である。よく研磨されている。

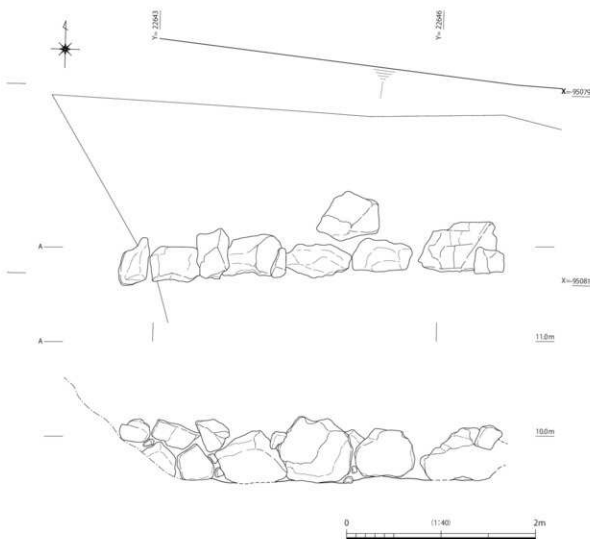


第84図 庵寺石塔群石列2土層図(西壁・中央、東壁土層図)

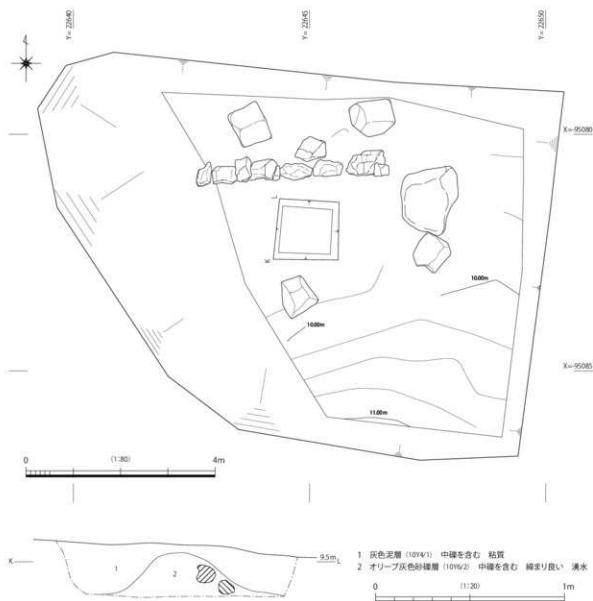
時期の判る土器には岩窟の築造時期である元禄—正徳年間までさかのぼる資料は無く、18世紀中ごろから19世紀のものが大半である。

石造物（第88図22～第89図41）22から30は灯籠である。22は宝珠と笠部である。上から見て円形である。宝珠はあまり発達しない。笠部は内湾する。四つの破片に分かれていた。23は頂部にほぞ穴がある。上から見て円形である。笠部の上位に段があり、そこから斜めに端へ至る。ほぞ穴内部と外面には工具痕がある。24は上から見て方形である。ほぞ穴がある。火袋側は一段加工しているがほぞ穴の部分丸く残している。25～27は火袋である。25は四角形で、円形と四角形の火口をあける。26、27は円形の火口を開ける。28は笠部と考えられる。外面に工具痕がある。29は火袋と考えられる。火口が下向きの三角形である。30は中台である。30は花卉状の装飾がある。内側にくり込みがある。31～34は破片のため不明である。31は直径約10cmに円形に作り出している。32は灯籠の火袋の可能性ある。35～38は五輪塔の空風輪である。35の空輪頂部はあまり突出しない。くびれ部が顕著ではなく、ほぞが太い。36、37もほぞが太い。39は宝篋印塔の屋根の部分である。40は墓標の基礎の可能性ある。41は笠付の墓標と考えられる。

石材は白色凝灰岩と福光石がほとんどである。36、37はデイスaitである。



第85図 庵寺石塔群石列2下層実測図



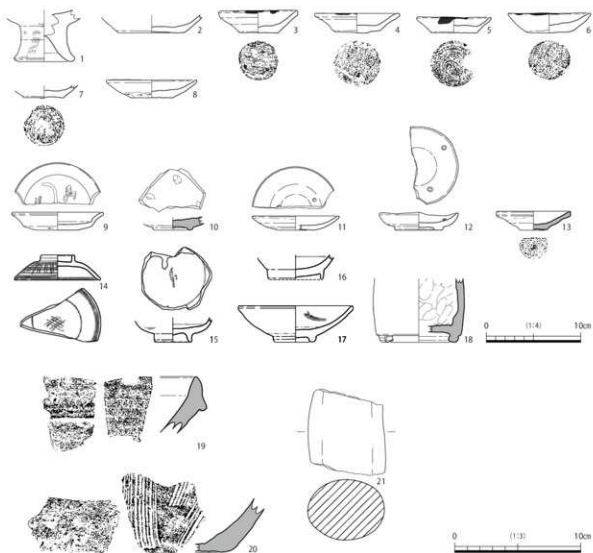
第 86 図 庵寺石塔群完掘図・下層確認土層図

小結

庵寺石塔群の調査では、直接石塔と関係する遺構は見つからなかったが、石列 2 つを確認した。出土遺物には灯籠や瓦があったことから、岩窟の前面を保護するために石列が築造された可能性がある。石列 2 の時期は、出土土器から岩窟より新しい 18 世紀中ごろから 19 世紀にかけて築造・機能したと考えられる。

【参考文献】

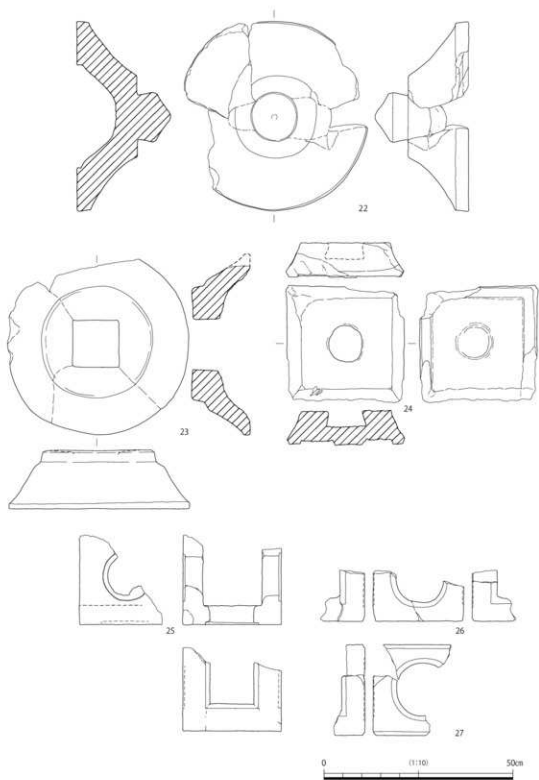
重根弘和 2003 「中世備前焼に関する考察」、近藤喬一先生退官記念事業会編『山口大学考古学論集 近藤喬一先生退官記念論文集』、309-320



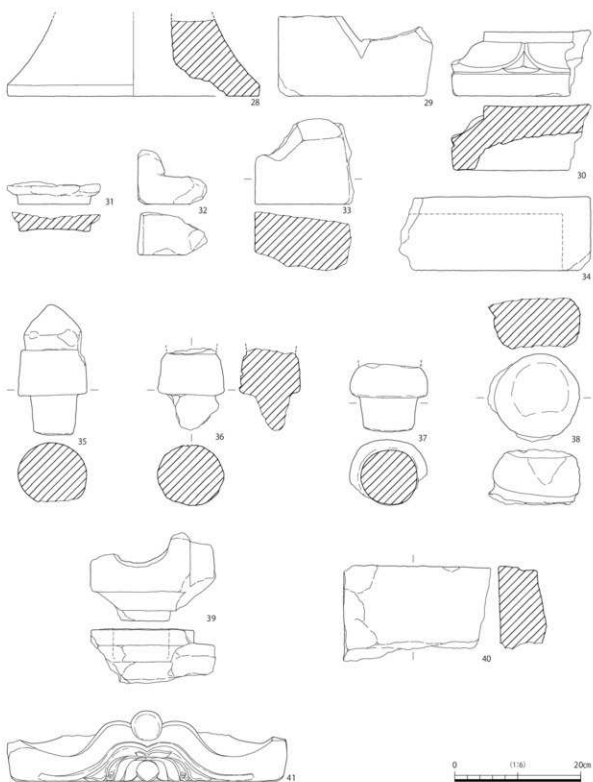
第 87 図 庵寺石塔群土器・石器実測図



写真 10 庵寺石塔群完掘（西から）



第 88 图 庵寺石塔群石製品実測图 1



第 89 図 庵寺石塔群石製品実測図 2

第14表 庵寺石塔群土器観察表

遺物番号	埋蔵番号	写真箇所	種別	器種	出土地点/ 層位	口径 (cm)	その他の 寸法 (cm)	残存率	形態、文様の特徴	色調
1	第87窟	図版92	土師器	高坏			底径(7.8)	35	摩滅	(外) 褐色 (S192/8) (内) 褐色 (1094/7)
2	第87窟	図版92	中世土師器	杯			底径(10.7)	25	摩滅	灰白色 (2.519/1)
3	第87窟	図版92	中世土師器	皿		8.4	器高2.4 底径4.2	完形	口縁部煤付着、底部静止糸切り	(外) 浅黄褐色 (2.519/6/3) (内) 褐色 (2.519/2/6)
4	第87窟	図版92	中世土師器	皿		(8.8)	器高2.1 底径4.8	底部完存	口縁部煤付着、底部回転糸切り	褐色 (2.519/2/6)
5	第87窟	図版92	中世土師器	皿		(7.8)	器高1.6 底径5.0	底部完存	口縁部煤付着、底部回転糸切り	褐色 (2.519/2/6)
6	第87窟	図版92	中世土師器	皿		8.8	器高2.1 底径4.2	90	口縁部煤付着、内面摩滅	(外) 褐色 (S198/3) (内) 浅黄褐色 (2.519/2/6)
7	第87窟	図版92	中世土師器	皿			底径4.5	底部完存	摩滅、底部回転糸切り	(外) 浅黄褐色 (2.519/4) (内) 浅黄褐色 (2.519/6)
8	第87窟	図版92	中世土師器	皿		9.6	器高1.9 底径4.5	80		褐色 (2.519/2/6)
9	第87窟	図版92	輸入磁器	皿	耕土	(9.7)	器高4.5	40	同安楽系青磁、lab 部、角が鋭化	(外) 灰オリーブ色 (S194/2) (内) 灰白色 (S197/2)
10	第87窟	図版92	国産陶器	皿			底径4.1	70	唐津焼、胎土目	(外) にふい粉色 (S196/4) (内) 褐色黄色 (2.519/2)
11	第87窟	図版92	国産陶器	皿		(9.0)	器高1.5 底径(3.9)	45	信楽焼、胎土目、外面無釉、内面 施釉	(外) 灰白色 (2.517/1) (内) 灰白色 (S197/2)
12	第87窟	図版92	国産陶器	皿	トレンチ	(8.2)	器高1.8 底径(4.8)	50	萩焼?胎土目	にふい粉褐色 (1019/3)
13	第87窟	図版92	国産陶器	皿		(7.7)	器高2.0 底径(2.8)	45	底部回転糸切り	(外) にふい粉褐色 (2.519/4/3) (内) 赤色 (S195/3)
14	第87窟	図版92	磁器	皿		(9.0)	器高2.7	20		灰白色 (2.519/1)
15	第87窟	図版93	磁器	鉢			底径3.8	底部完存		灰白色 (1019/1)
16	第87窟	図版92	磁器	鉢			底径(5.5)	20		明緑灰色 (7.501/1)
17	第87窟	図版93	磁器	皿		(11.9)	器高3.9 底径3.9	底部完存	見込みは蛇/目輪割ぎ	
18	第87窟	図版92	国産陶器	香炉			胴径(9.7) 底径(7.8)	25	国産陶器、石見焼、ろくろ不使用	(外) 暗褐色 (7.519/3/4) (内) 浅黄褐色 (1019/4)
19	第87窟	図版92	国産陶器	燗鉢					備前焼、内面はよく使用	(外) にふい粉褐色 (2.5194/3) (内) にふい粉褐色 (S195/3)
20	第87窟	図版92	国産陶器	燗鉢					備前焼、厚底、内面はよく使用	(外) 灰赤色 (2.5194/2) (内) にふい粉褐色 (2.5194/3)

第15表 庵寺石塔群石器・石造物観察表

遺物番号	埋蔵番号	写真箇所	種別	器種	出土地点/ 層位	材質	長さ/高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	形態の特徴
21	第87窟	図版92	石器	太形鉾刃石片		安山岩?		6.2	4.8	0.36	よく研磨
22	第88窟	図版93	石製品	灯籠		白色凝灰岩	50.0	24.8		26.20	宝珠、笠
23	第88窟	図版93	石製品	灯籠		白色凝灰岩	15.6	48.0		22.25	笠
24	第88窟	図版93	石製品	灯籠		燐光石 (29.8)	31.0	9.4	10.50		
25	第88窟	図版93	石製品	灯籠		白色凝灰岩		26.0		6.50	火袋
26	第88窟	図版93	石製品	灯籠		燐光石		24.0		2.25	火袋
27	第88窟	図版93	石製品	灯籠		燐光石				2.50	火袋
28	第89窟	図版93	石製品	灯籠		燐光石				3.80	笠
29	第89窟	図版93	石製品	灯籠	耕土	白色凝灰岩				2.45	火袋?
30	第89窟	図版94	石製品	灯籠		燐光石				3.75	中台
31	第89窟	図版94	石製品	灯籠?		白色凝灰岩				0.60	
32	第89窟	図版94	石製品	灯籠?		白色凝灰岩				0.35	火袋?
33	第89窟	図版94	石製品	灯籠?		白色凝灰岩				1.65	
34	第89窟	図版94	石製品	灯籠?		燐光石	11.7			4.55	
35	第89窟	図版94	石製品	五輪塔		白色凝灰岩	20.6			1.75	空風輪
36	第89窟	図版94	石製品	五輪塔		デイスait				1.20	空風輪
37	第89窟	図版94	石製品	五輪塔		デイスait				1.30	空風輪
38	第89窟	図版94	石製品	五輪塔	トレンチ	凝灰岩				1.75	風化、空風輪
39	第89窟	図版94	石製品	宝篋印塔?		白色凝灰岩				3.80	扉塔?
40	第89窟	図版94	石製品	扉塔?	トレンチ	燐光石				6.65	基礎?
41	第89窟	図版94	石製品	扉塔?	トレンチ	燐光石		44.2		1.45	笠付?